



【取組内容】

- SDGsへの効果的な取組ができるよう、**学校が中核となり関係機関と連携。「全校アプローチ」体制を構築。**
- 地域の生産者、企業、NPO、行政機関等と連携して地域での自然・社会体験学習ができる**教科横断的カリキュラムを編成**。全学年で環境などに配慮した**エシカル消費推進のため消費者教育を実践**。また、保護者とともに学習する機会も設定し、**保護者の意識を改革**。
- **地場産物を活用したレシピの開発**、規格外農産品の有効活用による**食品ロス削減**、地域産業の活性化・フードマイレージ低減のために**地産地消の推進**、**阿波藍の国内・世界への発信**。
- 具体的な実践を児童・教職員が**全国に発信・普及**。

SDGs実施指針における実施原則（本アワード評価基準）

普遍性	エシカル消費の普及や消費行動の転換は、日本国内のみならず世界的に応用可能。
包摂性	エシカル消費は誰もが簡単に行動できるものであり、消費行動において多様性を尊重することが可能。
参画型	学校の主体的な学習・行動が、生産者・企業・行政・NPO等のステークホルダーの意識変容を促し、行動につなげる取組。
統合性	エシカル消費は、経済・社会・環境の相互関連を明確にした行動。つくる・つかう責任を核としたまちづくりを実現。
透明性と説明責任	推進委員会、研究会や研修会で活動を発表すると同時に学校HPにおいて公表。それぞれの活動に数値目標を設定し、検証。

